



「真性性」のエコノミーの形成から 国家主義的なイデオロギーの再生へ



Luc Boltanski

■講師紹介

1940年生まれ。フランス国立社会科学研究院(EHESS)教授をへて現在はIRIS(Institut de Recherche Interdisciplinaire sur les Enjeux sociaux)研究者。批判の社会学を展開している。

著書

『正当化の理論-偉大さのエコノミー』ローラン・テヴノー共著(新曜社) 2007年

『偉大さのエコノミーと愛』(文化科学高等研究院出版局) 2011年

『資本主義の新たな精神』上下巻 エヴ・シャペロ共著(ナカニシヤ出版) 2013年

本講演では、近年西ヨーロッパ、特にフランスにおける資本主義が大きく変わったことを指摘し、それがどのように変容したか、またその変化によって政治の世界がどのような影響を受けたかなどの課題を取り上げ、批判的社会論を述べる。変化とえば、一方で脱産業化と低賃金の諸国への製造業の移動があげられ、他方では新しい資産に基づく蓄積過程のエコノミーが誕生したという。それは従来、手仕事による高級ブランドや芸術品の生産、遺産相続の不動産などから成るようなこれらの資産は、ヨーロッパ独自の伝統に根を下ろしたと言われる「真性性」の考えに基づいて形成されていた。資本主義の変化の結果、新しい社会階級や新しいタイプの不平等が形成されるようになった。その社会的・経済的な変化によって右派や極右派、とりわけ国家主義的な右派へのシフトが促されたのではないかというテーゼについても述べる。

■講演はフランス語で行われます
逐次通訳あり 通訳者：Chiche Yukiko

日時： 7月21日(祝・月)
18:30-20:00

入場無料
申込不要

会場： 志高館 SK113教室

同志社大学グローバル・スタディーズ研究科

Tel.075-251-3930 / E-mail: ji-gs@mail.doshisha.ac.jp